

第5回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2013年3月12日（火）午後4時15分～午後5時15分

場 所：川崎市役所第四庁舎第1会議室

出席者：〔委員〕岩森、小倉、庄司、末吉、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室

〔事務局〕一般社団法人CAT

1. 開会

2. かわさきコンパクト事業推進の今年度の振り返りについて

事務局から今年度の活動報告があり、その内容を振り返りながら意見交換を行った。

- かわさきエコ暮らし未来館、地球温暖化防止活動推進センター交流コーナーなどの展示では、イベントに絡めることができたのか、また子どもに向けた説明はあったのか？
- （市）エコ暮らし未来館では夏休みの間常設展示をし、交流コーナーでは一か月間の展示を行った。エコ暮らし未来館では環境教室を3回開催して参加した親子に向けての説明ができた。対象は市民団体や見学者で、子ども向けというものは特にしていない。
- 交流コーナーでは企業とNPOの意見交換会のときに、パネルセッションで「いいね」シールを貼り合うなどして、じっくり見てもらえるような工夫をした。
- コンパクトを知ってもらう工夫として、インタビュー記事を有効活用したい。丁寧に作られているので、フォーラムなどのイベント時に資料として配布できるといい。
- 子どもは、かわさきコンパクトを知る機会があるのか？
- コンパクトを前面に出して説明する機会はないが、CCかわさきなどとセットにして伝えることはある。
- 世界では「コンパクト」という課題解決に向けた仕組みがある、ということ子どもたちに伝えるのは意味がある。
- かわさきコンパクトこども版を作るのはどうだろうか。
- 新たに創るのは難しいのではないか。川崎市子ども会議というのがあって、全市的な動きをつくることができる。子どもの権利条約を根拠に組織しており、考え方は共通している。毎年テーマを設定しているので、テーマとして取り上げてもらうようにするなどはどうだろうか。
- 川崎市子ども会議の動きを知り、どういった提案ができるか今後検討していく
- かわさきコンパクトの参加団体や企業では、子ども対象の学習カリキュラムを持っている所がいくつかある。もう一步踏み出して連携して何かできれば面白いのではないか。

- 子ども向けの学習プログラムを持つ所から多数のオファーが来ていて、学校側はどれを選択すればいいか迷っている状態である。このネットワーク化ができないだろうか。
- 神奈川サイエンスサマー（県内各地で実施している子ども向けの科学教室を一律で紹介する仕組み）の川崎版のようなものがあるといい。
- 川崎に住み続けたいという市民が 70%もいて、川崎のイメージはこの 10 年で確実に良くなったが「川崎」から想起されるものが少なく特長がない。ふるさと感をどう持たせるのか。他の市にはない特長を作りたい。

3. 来年度のかわさきコンパクト事業推進の重点的な取組について

事務局から来年度の取組についての説明があり、それを基に来年度の重点項目などについて意見交換を行った。

- 庁内の中でイベントを紹介できるようになったということだが、他局との連携など新たな展開はあったか？
- （市）現状ではない。今のままでは広げるのは難しく、新しいことを起こす必要を感じる。
- 他局へ向けてのアピールとして、連携した企画を仕掛けていくなど行動が必要だ。
- 経済労働局とタイアップして、参加企業の見学会を行う、また「コンパクト月間」と称して集中して PR する期間を設けるなどはどうか。
- 既存事業と連携することは今後もやっていく。特に地球温暖化防止活動推進センターでは 3 月 CSR、6 月は事業者との連携など関連した企画があるので、共催等で協力していく。
- 登録したくなるような広報（ちらし、リーフレット）をもっと検討して欲しい。フォーラムで末吉委員が述べた、冒頭のかわさきコンパクトを分かりやすく説明した内容がわかりやすかった。
- 低 CO2 川崎ブランド事業など環境局の他事業で認定を受けた企業を対象にコンパクトへ促すことをぜひ進めて欲しい。一覧を作成し一つひとつ声掛けをしていただきたい。

最後に、市より来年度は例年並みに事業を実施する予定であることが報告された。

4. 閉会